

兵庫県ラグビースクール連盟 ミニ・ラグビー競技規則(2009-2010 U-12)

項目・学年		低学年(1～2年 / U-7～8)	中学年(3～4年 / U-9～10)	高学年(5～6年 / U-11～12)
チーム		5人 フォワード1、ハーフバック1、バックス3	7人 フォワード3、ハーフバック1、バックス3	9人 フォワード3、ハーフバック1、バックス5
競技場		フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは 40m以内×28m以内、インゴールは3m以内	フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは 60m以内×35m以内、インゴールは5m以内	フィールド・オブ・プレー及びインゴールの広さは 60m以内×40m以内、インゴールは5m以内
ボール		3号	3年/3号、4年/4号	4号
試合時間		10分ハーフ以内	15分ハーフ以内	20分ハーフ以内
キックオフ		ハーフウェイライン中央においてタップキックからのパス(タップキックした時点で解消)相手側はハーフウェイラインより5mさがる。	ハーフウェイライン中央から、ドロップキックまたはブレースキックで行う。相手側の5mラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムから再開する。(日本協会では、パスキックが許されると記載)	ハーフウェイライン中央からドロップキックで行う。相手側の5mラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムから再開する。
得点後のキックオフ		得点された側のチームがハーフウェイライン中央において、タップキックからのパスとする。	得点した側のチームがハーフウェイライン中央、またはその後方から行う。	
ドロップアウト		ゴールライン中央より5mフィールドオブプレーに入った地点にて、タップキックからのパスを行う。	10mライン上あるいはその後方から行う。	
キック	プレー開始、再開のタップキック以外のキックは禁止	ボールを手で保持した状況から以外のキックは禁止である(地上にあるボールを蹴るようなキック)		ドリブルはOK
	キックが行われた地点で相手ボールのスクラム			
	ミニラグビーにおけるタップキックとは、ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。			
			フライングキック(戦略的・戦術的意図のない、コントロールされていないキック)をしてはならない。そのようなキックが行われた場合、キックが行われた地点で相手側にスクラムが与えられる。  ダイレクトタッチは10mライン内からのみ許される。10mラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。	
スクラム	フロントロー1人で構成する	フロントロー3人で構成する		
	スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組む。	フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。		
	お互いのフロントローは左手は相手フロントローの右腕の内側、右腕は相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージの背中または脇をつかむ。	フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりと脇の高さか、またはその下をつかまなければならない(いわゆるフッカーのオーバーバインドの組み方。肩口は脇の高さとは認められない)。プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはならない。		
	スクラムでは、プレーヤーの習熟度に応じて、頭を組み入れず、お互いの上腕をつかみ合うハンドスクラムを行うことができる。	スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組む。その際、お互いのフロントローのうち、左プロップは、左手を相手フロントローの右腕の内側に、右プロップは、右手を相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージの背中または脇をつかむ。		
	頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。	すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組まなければならない。		
	スクラムを形成するプレーヤーはスクラムが終了するまでバインドしていなければならない。			
	ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめプレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールを右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめフッカーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	スクラムは「ノンコンテストスクラム」であり、ボールの取り合い、押し合いではなく、ボール投入側が必ずボールを獲得するが、ハーフバックは、スクラムの中央に、まっすぐボールを投入しなければならない。ボール投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける。 フッカーは、故意に相手側にボールを蹴りだしたり、自チームオフサイドラインまでボールを掻いてスクラムを終了させてはならない。 ボールキープはOKとするが、速やかにヒールアウトし、故意に長くキープしてはならない。	
防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックスとみなされる。	スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ①防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方のプレーヤーの一番後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。 ②防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックでなく、バックスとみなされる。その場合のオフサイドラインは上記①が適用される。一旦、①で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを越えてプレーすることはできない。	スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ①スクラムに参加しないプレーヤー(ハーフバックを除く)の双方(攻撃側、防御側)のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方のプレーヤーの一番後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。 ②スクラムにおいてボールを投入しない側(防御側)のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方の一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックでなく、バックスとみなされる。その場合のオフサイドラインは上記①が適用される。一旦①で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックは、獲得したボールをプレーするためにオフサイドラインを越えてプレーすることが許される。		
防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足から3m下がったゴールラインに平行な線である。	オフサイドラインはスクラムが終了するまで解消されない。スクラムはボールを獲得した側のハーフバックがボールを触った時点で終了する。 【例外2】スクラムに投入されたボールが、スクラムに参加していないプレーヤーのオフサイドラインに偶然達した場合、スクラムは終了する。			

レフリー委員会 2010年9月4日

項目・学年	低学年(1～2年 / U-7～8)	中学年(3～4年 / U-9～10)	高学年(5～6年 / U-11～12)	
スクラム	スクラムにおいてオフサイドラインの解消は、次の時点とする。 ①ボール投入側のハーフバックのパスを、バックスのプレーヤーがキャッチした時点とする。 ②ハーフバックがパスしたボールが地面に落ちた時点とする。 ③ハーフバックがパスしたボールが、ハーフバックに一番近いバックスを越えた時点とする。	スクラムにおいてのオフサイドの解消は、ボール投入側のハーフバックスのがボールをパスをした時点とする。	スクラムへのボールの投入は、ハーフバック行う。ハーフバックは、【例外2】の場合を除き、いかなる場合でもスクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなくてはならない。  ハーフバックは、あたかもボールに触れたかのようなそぶりやボールに触れずに時間を空費する行為をしてはならない。	
			防御側にボールがスクラムから出た場合は、防御側のハーフバックスがボールに触った時点でオフサイド解消とする。	
	ハーフバックスがパスしたボールをバックスがノックした時は、相手ボールのスクラムとする。	スクラムからのボールをハーフバックスがパスをせず直接キックすることを禁止する。相手ボールのFK	防御側がボールを獲得した場合、防御側のハーフバックスがオフサイドラインまで下がっていた時は、1名のみオフサイドラインを越えてボールに触ることが出来る。(2名以上オフサイドラインを越えたときは、1名のみを認め、その他のプレーヤーをオフサイドラインまで下がるよう指示する。)	
	スクラムでのサイド攻撃はNG(スクラムハーフは、必ずパスをする。) 相手ボールのFK		スクラムでのサイド攻撃はOK	
ラインアウト	ラインアウトは行わない。	ラインアウトは以下のように行う。なお、ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポーティングプレーは禁止とする。		
	ボールがタッチになった場合、タッチになった地点がゴールラインから5m以内の場合はゴールラインより5mの地点より、それ以外はタッチになった地点より、投入側のプレーヤーが味方側にパスを行う。	①ボールがタッチになった場合、ラインアウトによって試合を再開する。②ボール投入は、ボールがタッチになった地点から行う。ただし、ゴールラインから5m以内ではラインアウトは行わない。③ラインアウトに並ぶプレーヤーは1チーム2人である。先頭のプレーヤーはタッチラインから3m以内には立ててはならない。最後尾のプレーヤーはタッチラインから8mを越えて立ててはならない。④ボールを投入するプレーヤーの相手は、ラインアウトに近接して、タッチラインから3mの以内の位置にいなければならない。⑤双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間(1m)がなくてはならない。⑥ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオフタッチから少なくとも5mは下がってなくてはならない。⑦ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、投入を再びやり直す。		
	その際相手側はボールがタッチになった地点より3m下がりボールの投入を妨害してはならない。	ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がボールをとる。ボールをとったプレーヤーは必ずハーフバックにボールをパスしなくてはならない。(日本協会はジャンプして取ると記載)		
	タッチになった地点からゴールラインと平行に3m以上投げ入れる。手に触れた時点でオフサイドは解消する。また、キャッチャーはそのまま持っていても良い。(日本協会は平行の記載は無い。また、オフサイドの解消、キャッチャーの持ち込みの記載も無い)	ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。 (運用:ラインアウトが解消されるまでプレーヤーはその位置にとどまる。)	ラインアウトは次の場合に解消する。①ボールをもったプレーヤーがラインアウトの列から離れたとき。②ボールまたはボールをもったプレーヤーが3mラインとタッチラインの間、あるいは8mラインを越えて移動したとき。③ラインアウトでモール、ラックができた場合、その密集に参加しているすべてのプレーヤーの足がラインオフタッチを越えて移動したとき。④ラインアウトの列から自陣方向にパス・キック・タックされたボールにハーフバック役のプレーヤーが触れたとき(以下運用:またはパス・キック・タックされたボールが地面に触れたとき。)	
ゴールキック	トライ後のゴールキックは行わない。	トライ後のゴールキックはゴール正面から行なう。	トライ後のゴールキックはトライをした地点を通りタッチラインに平行した線上からおこなう。	
ファウルプレー	以下のようなプレーはファウルプレーである。●防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回す。●ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする。●フェンドオフ(腕を横に振り、相手を払い除けるプレー)。●モール・ラックを崩す。●頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する。●安全が確保できないような体勢でボールを拾う。●相手に怪我をさせるような行為。これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。			
	判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。			
ペナルティ	すべてのペナルティにおいて反則を犯さなかった側はタックルキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5m下がる。			
	反則の地点が相手側ゴールラインから5m以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5mの地点でタックルキックを行う。			
	フリーキックも同様である。			
補足	防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3m下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、PKまたはFKIにおけるいわゆる「キャブल्ली・チャージ」相当し、競技規則に反するプレーである。相手ボールのPK		スクラムからの「キャブल्ली・チャージ」に相当するプレーを罰則対象とはしない。これは、攻撃側にも、スクラム最後尾から3mのオフサイドラインが設けられているためである。したがって、このようなプレーは起こりえず、起きる場合は、オフサイドの反則である。	
	スクラムを組んだ後、フッカーの右足の前にボールを置くようにレフリーは指示する。(低学年、中学年)			
	スクラムはレフリーの4段階(クラウチ・タッチ・ポーズ・エンゲージ)の声で組ませる。			
	【用具について】●スパイクについて、プレーヤー及び指導者の靴底は非金属製の固定式スタッド及びブレッドタイプのものとし、取替え式スタッドの使用は禁止します。●ショルダーパットの使用は禁止します(平成12年通達)。●マウスガードを使用する場合、歯科医の監督指導のもとで作製されたものを使用。			
指導者	試合中、コーチは定められた区域内に位置し、プレーヤーに対して指導的な指示、助言を行える。ただし、子どもの自主性、判断力、応用力を養うことからヒステリックに怒鳴ったり、子どもの人格を否定するような言葉を発したり、レフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーはそのコーチを退場させる。退場を命じられたコーチは、速やかに競技場から離れなければならない。			
	低学年の試合では、各チーム1名のコーチがグラウンドに入る事が許される。ゲーム中、グラウンドに入ることを許されたコーチは、自軍の最後尾のプレーヤーより後方で留まり、プレーヤーに対して建設的な指導・助言を行える。ただし、ヒステリックに怒鳴ったり、レフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。レフリーはコーチの言動が建設的ではない、あるいは試合の進行に妨げがあると判断した場合、試合を停止し、コーチに注意をする。それでも改善がみられない場合、レフリーはそのコーチを退場させることができる。退場を命じられたコーチは、速やかに競技場から離れなければならない。			
	コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者側にその旨を報告する。			

項目・学年	低学年(1～2年 / U-7～8)	中学年(3～4年 / U-9～10)	高学年(5～6年 / U-11～12)
レフリー タッチジャッジ			ELV11の導入に伴い、スクラム時のタッチジャッジのポジションについて、基本として以下とする。ラインアウト時の立ち位置と同じポジションとする。つまり、スクラムのポイントに近い方が攻撃側、遠い方が防御側を確認する。ポイントが中央付近の場合は、チームの左側のタッチジャッジが確認する。
	子どもたちが楽しく・正しくラグビーをプレーできる環境を作るのがミニラグビーのレフリーの役割です。したがって、ゲーム中の事実を判定するだけではなく、ミニラグビー指導者としての立場が要求されることを認識してください。		
	レフリー、タッチジャッジは、中立的立場であり、どちらのチームに対しても助言等をしてはいけない。但し、危険なプレー、オフサイド等の反則を予防する為の指導は除く。		
	ハーフタイムは、ハーフウェイライン付近にとどまるよう努める。試合が始まったら、コーチではなくレフリー、タッチジャッジとしての行動を優先する。		
	プレーヤーに敬意を表するためにも、清潔でレフリーにふさわしい服装、毅然とした態度、親しみやすい言葉遣いと表情を意識してください。		
	ノーサイドを宣した後、双方のチームに対し、意欲を喚起するような励ましの言葉をかけてあげてください。		
	試合後は、必ず双方のコーチと危険なプレー、好ましいプレー等について、共通の認識が持てるよう意見交換をしてください。		
	レフリー、タッチジャッジのスタイルについて。公式戦はもちろんのこと、交流試合においてもきちんとしたスタイルにてゲームのジャッジに望むべきである。襟の付いたタイプの上着の着用、ストッキング、スパイクの着用は最低のルールと考える。(極寒時等は、タッチジャッジのウィンドブレーカー等の着用は可能)。Tシャツ、短い靴下等の着用によるレフリーは慎むべきである。相応しくないスタイルにてジャッジを行う事は、一生懸命プレーをしている生徒達に対し、失礼であるとの気持ちを持つ事が必要である。		